

鉛筆

徳川家康公（1542-1616）が所有していた鉛筆で、日本最古の鉛筆として知られている。家康公の遺品の筆箱の中から発見された。黒鉛がスペイン領であったメキシコ産であることから、家康公に会ったスペインの使者の一人が贈ったものと考えられている。

黒鉛の先端は角度がついており、エッジは柔らかな丸みを帯びていることから、この鉛筆が使われていたことがわかる。しかし、オーク材のケースには彫刻や削った痕跡がないので、あまり使われなかったと考えられる。当時、一般的に使われていた風合いのある和紙では、鉛筆は使いにくかったのだろう。

重要文化財